

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室きらり大阪狭山金剛校			
○保護者評価実施期間	2025年11月15日 ～ 2025年12月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年11月25日 ～ 2025年12月19日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全職員がすべての児童の支援を行うことができる。また、状況を見て行動することができる。	支援内容の共有を意識し、次の支援へとつなげている。また、利用者様や初めて来所される児童・保護者様、関係機関の出迎え・見送りを全員で行っている。	報告・連絡・相談等を行うなど、職員同士のコミュニケーションの機会を高めていく。
2	児童や保護者様に寄り添った関わりを持つことで信頼を得ている。	振り返りの時間を大切にし、保護者様の相談援助・家族支援などを行い、次の支援内容へつなげたりしている。	定期的に支援見学をしていただく機会を作り、振り返りや家族支援等へつなげていく。
3	多様な支援プログラムを提供することができる。	児童一人ひとりを多角的な視点で分析し、アプローチを行うことで、個々に応じた支援内容を提供している。	各指導員の支援ツールや方法を共有する機会を設け、支援内容の充実・質をアップさせていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様への危機管理（防災・感染など）に関する周知	実施予定・実施の様子などを周知ができていない。	教室内への掲示やHP等を使い実施の様子の周知や参加の案内を行っていく。
2	教室の様子等を発信する媒体が少ない	HPや振り返りでは行っているが、その他の媒体自体を活用していない	HP以外の媒体も活用し、幅広く教室の様子などを発信していく。
3	事業所内のスペースを上手く活用できていない	支援に入れ替わりの際に利用者様の動きを把握できていない時がある。	普段から職員間で情報共有などを行い、臨機応変に対応できるようにしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」大阪狭山金剛校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 22

回収数 19

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	7	1	0	・少し狭いかなと思う時があります。 ・やや狭く感じる気もします。	空いているスペースを活用したり、内容の順番を変更するなどし、限られたスペースで児童の安全面等に配慮しながら行える内容を考えていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	5	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15	4	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	2	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	1	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	1	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	2	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10	4	2	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	5	2	2		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	0	0	0	都度子どもの状況に応じて、「次はこんなことをしてみようか」というお話があるので良いと思います。	引き続き児童のご様子などに合わせた関わり方を行えるようにしていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	0	0	1	毎回終了時にされる、振り返りが面談でしょうか？それ以外に設定される面談があるのでしょうか？	振り返りの中で支援の様子や最近の児童のご様子などをお聞きしております。その他にも事業所内相談という形で児童についてご相談いただける制度もございます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	8	5	5		保護者様同士がつながる機会を持てるような会を開けるようにしていく。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	2	1	2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	0	1	1	行つてすぐにプログラム開始となるので、本人の最近の様子が伝えられずにいます。一言でも様子を聞いてからプログラムに入ると先生方も対応しやすいと思います。	来所時にお子様の体調や来所までの様子などをお聞きし、支援時に配慮して行えるようにしていく。また、振り返りの際にも最近の様子等をお聞きし、次回以降の支援の参考にしていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8	6	1	4		多くのツールは活用できていないが、空き状況や教室の様子などの発信を今後も定期的に行っていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	4	0	2	・説明はあったが訓練等は話された事がなく、分からない。 ・知らない	保護者様にわかるような掲示方法等を考えていく
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	7	1	6	知らない。	保護者様にわかるような掲示方法等を考えていく
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	2	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	2	0	1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19	0	0	0	祖母と一緒に通所して、だいぶん慣れてきた様子が見られます。	今後も児童が安心して過ごせる場所となるようにできればと思います。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	0	0	0	子どもが楽しんでいるのが何よりです。	今後も児童が楽しく過ごせるような関わりを持っていきたいと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	2	0	0	先生方は良くされているかと思います。あとは子どもの結果がついてくれば良いです。	今後も児童のご成長のサポートができるように心がけていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」大阪狭山金剛校					公表日	2025 年    2 月    14 日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者数の多い時間帯によっては狭いスペースになってしまうこともあるが、なるべくそうならないように受け入れ人数の調整などを行っている。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		以前と比べると安全性は確保されているが、振り返り時や入れ替わりの時間帯で危ないなと感じるところはある。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		お子様によっては周りに物があるとそれが目に入り、本来の力を発揮できないこともあります。そういったお子さんはできるだけ物をあらかじめ排除しておくが、ご利用者様が多い時はその環境を整えることが難しい時もある。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○							
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○							
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○							
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○							
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングの時間は毎日確保するようにしており、お子さまについての共有や業務内容についての話し合いなどを職員みんなで意見を出し、行っている。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○							
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○							
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○							
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○							
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○							
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○							
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○							

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		時間の都合で支援終了後すぐとはいかないものの、翌日のミーティングの時間には共有するなど、迅速に対応できるように努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様のご希望がある場合は、きらりでのお子さまの様子やきらりで取り組んでいる内容の共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度からきらりひろばを開催する際には同時刻できらりカフェも開催し、保護者様同士で交流を持つことができる機会を作っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		フェイスシートでアレルギー等の情報提供はいただいているが、対応方法までは詳しく決められていない。 きらり内での食事はしないため該当しないです。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	事業所内での周知はできているものの、利用者さまやご家族さまへの周知は徹底できていない部分がある。	事業所内での周知はできているものの、利用者さまやご家族さまへの周知は徹底できていない部分がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			